

千葉県の自殺の状況について

- ・ 千葉県における自殺の統計【平成 30 年度版（平成 29 年統計データより）】・・・ 1
- ・ 全国・千葉県の自殺死亡者数の年次推移・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

千葉県における自殺の統計

【平成 30 年度版（平成 29 年統計データより）】

平成 31 年 1 月
千葉県衛生研究所

目次

I	はじめに	1
II	方法	1
1	用いた統計資料	1
2	年齢調整死亡率・標準化死亡比（SMR）の算出	2
III	自殺の現状	3
1	自殺者数の推移	3
2	自殺死亡率の推移	3
3	性・年齢階級別の状況	4
4	職業別の状況	5
5	原因・動機別の状況	5
6	原因・動機の詳細の状況	6
7	市町村別の状況	6
(1)	原因・動機別の状況	6
(2)	自殺の場所別の状況	8
8	月別自殺者数の推移	10
9	自殺との関連が考えられる事象の状況	11
(1)	年齢階級	11
(2)	完全失業率	12
(3)	交通事故死亡者数と自殺者数	12
10	児童・生徒における自殺の状況	13
(1)	18歳以下自殺者の内訳	13
(2)	自殺死亡率	13
(3)	いじめの認知件数	13
(4)	不登校	14
(5)	中途退学（高校生）	14
(6)	児童相談所における児童虐待相談対応件数	15
11	自殺未遂の状況	15
(1)	自殺未遂歴の有無	15
(2)	救急出場件数及び搬送人員	16
12	自殺に関連する相談の状況	17
(1)	精神保健に関する相談	17
(2)	「千葉いのちの電話」への電話相談（2017年1月～12月）及びフリーダイヤル（毎月10日実施）	18

千葉県における自殺の統計【平成30年度版（平成29年統計データより）】

平成31年1月28日
千葉県衛生研究所

I はじめに

全国の人口動態統計による自殺者数は平成10年を境に急増し、毎年3万人前後の高い水準で推移してきたが、平成22年以降減少を続け、平成29年には20,465人となった。

千葉県では、平成18年度から千葉県自殺対策連絡協議会を設置し、平成22年度から29年度（平成28年度に1年間延長）を期間とする「千葉県自殺対策推進計画」を策定した。本県の平成29年の自殺者数は990人となり、平成10年以降で初めて1,000人を下回った。

しかし、依然として年間約1,000人が自殺で亡くなっており、特に15～34歳における死因の第1位となっている。平成28年4月の自殺対策基本法の改正や平成29年7月の自殺総合対策大綱の改定を受け、本県においても「第2次千葉県自殺対策推進計画」を策定し、平成30年度からスタートした。

衛生研究所では、自殺対策を推進するための基礎資料として、自殺に関する統計のとりまとめを行っており、平成19年度から本書を公表している。本年度は、千葉県警察本部から提供を受けた自殺統計原票データを活用し、市町村別のハイリスク地及び児童・生徒の自殺とその背景要因を分析した結果をまとめた。本書が、自殺総合対策大綱に掲げられた当面の重点施策である「地域レベルの実践的な取組への支援を強化する」「子ども・若者の自殺対策をさらに推進する」に結びつくことができれば幸いである。

II 方法

千葉県の自殺の現状とその関連要因の把握のため、既存の統計資料を用いてデータの整理を行なうと共に、健康福祉センター（保健所）・市町村別の自殺死亡率、標準化死亡比を算出した。

1 用いた統計資料

(1)人口（平成25年～29年）

国：厚生労働省人口動態調査 人口動態統計「年次、性、年齢別人口、総数、男、女」

統計局発行「推計人口 年齢（5歳階級）、男女別、各月1日現在人口－総人口、日本人人口」

県及び市町村：千葉県総合企画部統計課 「千葉県年齢別・町丁字別人口調査における登録人口」

(2)自殺者数（平成25年～29年）

国及び県：厚生労働省人口動態調査 「死亡数、性・年齢（5歳階級）・死因（死因簡単分類）別」

市町村：厚生労働省人口動態調査 「死亡数、性・死因（選択死因分類）・都道府県・市区町村別」

(3)厚生労働省自殺対策推進室：地域における自殺の基礎資料（平成29年）（警察庁の自殺統計原票を集計したもの）

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougai Shahukushi/jisatsu/jisatsu_chiiki2016.html（2018/12/28 確認）

(4)厚生労働省自殺対策推進室、警察庁生活安全局生活安全企画課：平成29年中における自殺の状況

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougai Shahukushi/jisatsu/jisatsu_year.html（2018/12/28 確認）

(5)千葉県警察本部生活安全部人身安全対策課：自殺統計原票データ（平成25年～29年に千葉県内で発見され、警察の捜査に基づき、死亡原因が自殺と判断されたもの）※千葉県警察本部から受領

(6)厚生労働省：平成30年版「自殺対策白書」

<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/jisatsu/17/index.html>（2018/12/28 確認）

- (7) 総務省統計局：労働力調査（基本集計）都道府県別結果 時系列データ 第6表 完全失業率年平均（平成9年～29年）<http://www.stat.go.jp/data/roudou/pref/index.html>（2018/12/28 確認）
- (8) 厚生労働省：衛生行政報告例（平成21年度～29年度）第1章 精神保健福祉 第6表 精神保健福祉センターにおける相談、デイ・ケア、訪問指導・電話相談等人員数・普及啓発活動開催回数，都道府県－指定都市（再掲）別 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/36-19.html>（2018/12/28 確認）
- (9) 社会福祉法人千葉いのちの電話：平成29年度問題内容別相談件数状況
<http://www.chiba-inochi.jp/cidwp/wp-content/uploads/2018/08/64aa21cb4b416601a6ed1c55a4fef148-1.pdf>（2018/12/28 確認）
- (10) 千葉県防災危機管理部消防課：消防防災年報（平成16年版～29年版）
9.救急・救助業務 第2表「事故種別救急出場件数及び搬送人員」（2018/12/28 確認）
- (11) 文部科学省：児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（平成25年度～29年度）<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400304>（2018/12/28 確認）
- (12) 厚生労働省：福祉行政報告例（平成20年度～29年度）児童福祉 第28表 児童相談所における児童虐待相談の対応件数，都道府県－指定都市－中核市×相談種別別
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/38-1.html>（2018/12/28 確認）

2 年齢調整死亡率・標準化死亡比（SMR）の算出

人口規模の小さい地域において、人口や自殺者数の変動の影響を受けやすいため、千葉県、保健所管内別、市町村別の自殺死亡率、標準化死亡比（SMR）の算出では、人口、自殺者数ともに平成25年～29年までの5年分の合計数を用いて算出した。標準化死亡比（SMR）算出の基準人口集団の年齢階級別死亡率は当該年分（5年分）の全国人口値を用いた。

***1 自殺死亡率** 人口10万人当たりの死亡率

$$\text{自殺死亡率} = \frac{\text{ある期間の死亡数}}{\text{同じ期間の人口}} \times 100,000$$

***2 年齢調整死亡率** 年齢構成が著しく異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡率などについて、その年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いる。基準人口には「昭和60年モデル人口」を用いている。

$$\text{年齢調整死亡率} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} \text{観察集団の} \\ \text{各年齢階級の死亡率} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{基準人口のその} \\ \text{年齢階級の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢階級の総和}}{\text{基準人口の総数}} \times 100,000$$

***3 標準化死亡比（SMR）** 年齢構成の差異を基準の死亡率で調整した値（期待死亡数）に対する現実の死亡数の比のこと。主に小規模人口の地域の比較に用いる。ここでは基準集団を国としている。

$$\text{標準化死亡比 (SMR)} = \frac{\text{観察集団の死亡数}}{\left\{ \begin{array}{l} \text{基準集団の} \\ \text{各年齢階級の死亡率} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{観察集団のその} \\ \text{年齢階級の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢階級の総和}} \times 100$$

***4 標準化死亡比の経験的ベイズ推定値（EBSMR）** 市町村別の標準化死亡比について、自殺者数の少なさに起因する死亡率の変動の影響を抑え、より安定性の高い指標で地域間の比較を可能としたもの。EBSMRは、国立保健医療科学院ホームページ（http://www.niph.go.jp/soshiki/gijutsu/download/ebpoig/index_j.html）で公開されている「EB estimator for Poisson-Gamma model [Version2.1]」を使用して算出した。

Ⅲ 自殺の現状

1 自殺者数の推移

人口動態統計によると、平成 29 年の千葉県の自殺者数は 990 人で、男性は 680 人、女性は 310 人であった。平成 10 年以降は 1,300 人前後で推移してきたが、平成 27 年以降は減少傾向となり、平成 29 年には平成 10 年以降で初めて 1,000 人を下回った（図 1）。

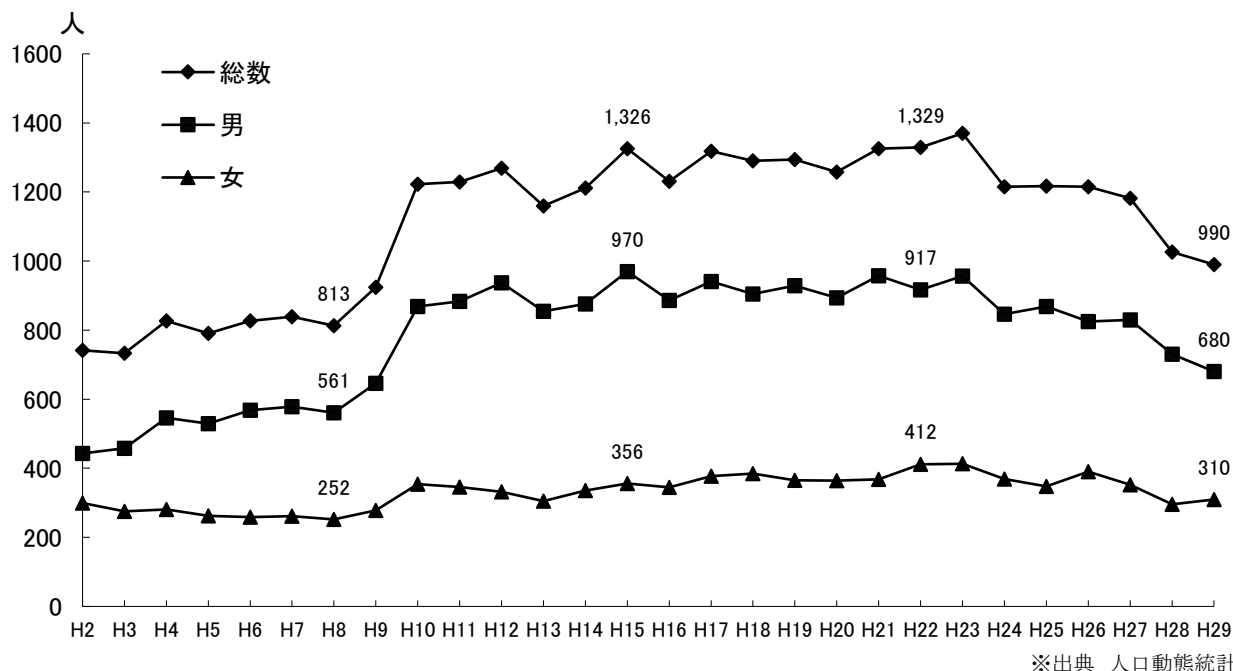


図1 平成2年以降の自殺者数の推移(千葉県)

2 自殺死亡率の推移

千葉県の人口 10 万人当りの自殺者数（以下、自殺死亡率*1 という。）は、平成 21 年まで全国より 2.0 以上低い値で推移していた。しかし、全国は平成 21 年から減少傾向が現れたのに対し、千葉県は平成 24 年から減少傾向となった（図 2）。

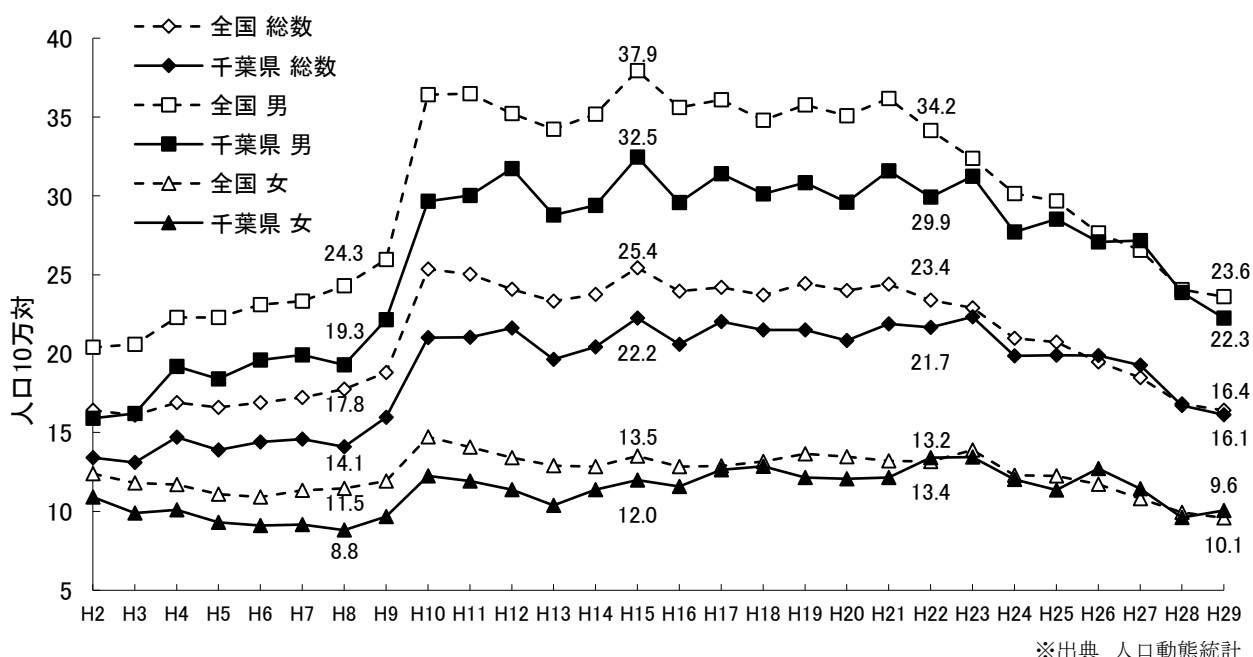


図2 自殺死亡率の年次推移

3 性・年齢階級別の状況

千葉県の子・年齢階級別の自殺死亡率を平成 25 年と平成 29 年で比較すると、男性は 35~44 歳、50~59 歳、65~79 歳及び 85 歳以上で減少しており、特に 50~54 歳は半減していた。しかし、15~24 歳は変化が小さく、30~34 歳で増加していた。なお、平成 29 年の 10~14 歳は自殺者数が 0 人であった。女性は、35~44 歳及び 65~74 歳で減少していたが、24 歳以下は変化がみられず、75~84 歳で増加していた (図 3)。

男女比は 5 年間ほぼ変わらず、平成 29 年は自殺者総数では男性が約 7 割を占め、女性の約 2.2 倍であった。

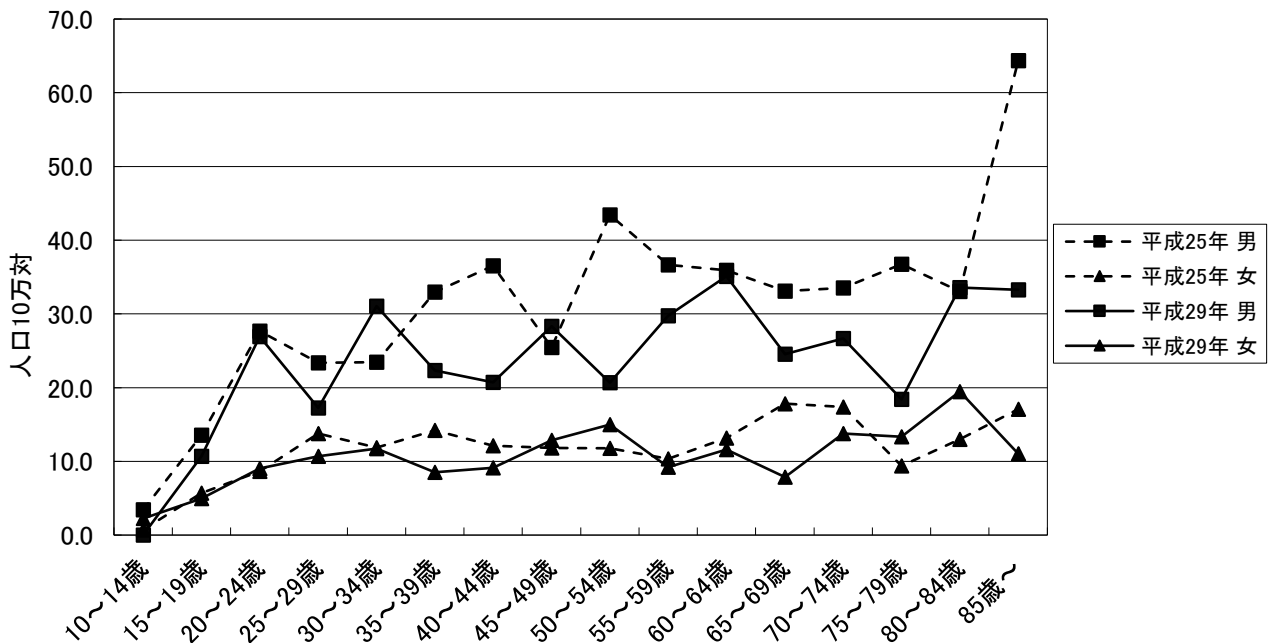


図3 性・年齢階級別 自殺死亡率(年次比較・千葉県)

65 歳未満の平成 29 年人口動態統計の死因別では、自殺による死亡者数は前年同様、全体で 8 位であった。総数では 10~14 歳及び 45~49 歳で前年より順位が改善し、特に 10~14 歳で 4 位となった。しかし、60~64 歳は前年より順位が悪化し、15~34 歳は平成 23 年以降 1 位が続いている (表 1)。

表 1 平成 29 年 若者・働き盛りの自殺の死因順位(千葉県)

	10 14 歳	15 19 歳	20 24 歳	25 29 歳	30 34 歳	35 39 歳	40 44 歳	45 49 歳	50 54 歳	55 59 歳	60 64 歳
総数	4	1	1	1	1	2	2	2	4	4	4
男		1	1	1	1	1	1	3	4	4	4
女	2	1	1	1	1	2	2	2	3	4	4

* 10 歳未満は自殺者なしのため省略。

4 職業別の状況

警察庁の自殺統計原票を集計した結果（以下「警察統計」という。）から、自殺日及び住居地を基準とした平成 29 年の職業別自殺死亡率をみると、総数では、全国・千葉県ともに「その他の無職者（年金・雇用保険等生活者を含む）」が最も多く、次いで「自営業・家族従事者」が続いた。全国と比べると千葉県は、「失業者」が下回っていたが、「主婦」は上回っていた。男女別にみると、「その他の無職者（年金・雇用保険等生活者含む）」では、男性は全国を下回っていたが、女性は全国を上回っていた（表 2）。

表 2 平成 29 年 職業別自殺者数と自殺死亡率(全国・千葉県)

		自営業・ 家族従事者	被雇用・ 勤め人	学生・ 生徒等	主婦	失業者	その他の 無職者	不詳
総数	全国	1,432 20.0	6,392 12.3	813 3.7	1,207 8.7	664 25.5	10,288 48.9	331 4.6
	千葉県	51 18.0	322 12.4	38 3.6	73 10.2	24 19.4	470 48.6	4 1.1
男	全国	1,261 28.9	5,277 18.4	574 5.1		586 34.6	6,689 60.5	273 7.1
	千葉県	47 26.8	271 18.3	27 4.9		21 25.4	297 54.8	4 2.0
女	全国	171 6.1	1,115 4.8	239 2.2	1,207 8.7	78 8.6	3,599 36.1	58 1.7
	千葉県	4 3.7	51 4.6	11 2.1	73 10.2	3 7.3	173 40.6	0 0.0

数値：上段は自殺者数、下段は自殺死亡率(人口 10 万対) ※人口：平成 27 年国勢調査

5 原因・動機別の状況

発見日及び発見地を基準とした平成 29 年の警察統計によると、発見地が千葉県内であった自殺者 985 人の内、原因・動機の特定できた者は 677 人で全体の 68.7%であった。平成 25~29 年合計では、自殺者 5,625 人の内、原因・動機の特定できた者は 3,863 人で全体の 68.7%であった。

警察統計では、自殺の原因や動機が特定できた者における原因・動機（一人につき 3 つまで計上）が集計される。平成 29 年の原因・動機が特定できた者に占める割合は、「健康問題」61.3%、「経済・生活問題」24.7%、「家庭問題」19.8%、「勤務問題」13.7%、「男女問題」5.8%、「学校問題」3.0%であり、全国と同様の傾向であった。平成 25~29 年合計では、「健康問題」65.2%、「経済・生活問題」24.8%、「家庭問題」22.4%、「勤務問題」11.1%、「男女問題」5.0%、「学校問題」2.6%であり、全国と同様の傾向であった（図 4）。

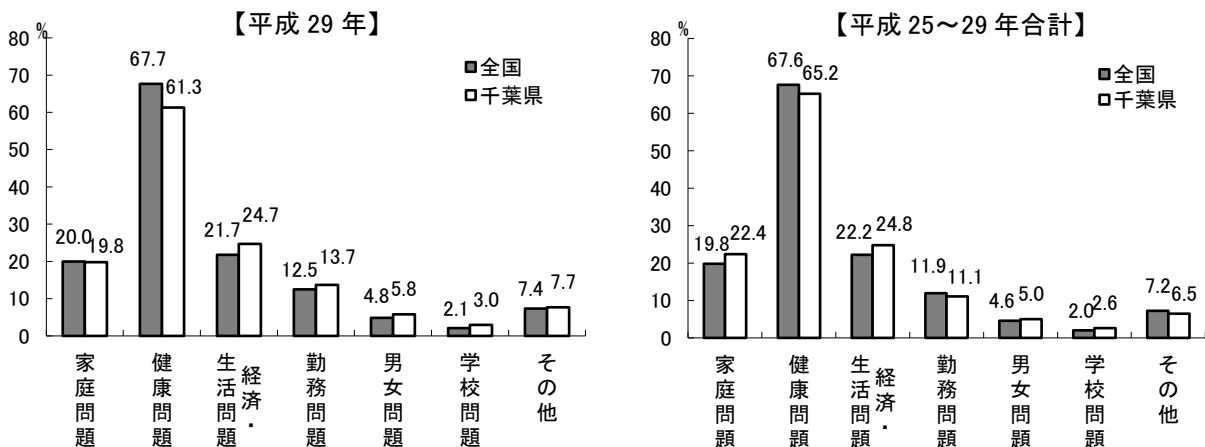


図 4 自殺の原因・動機特定者に占める各原因・動機の割合(全国・千葉県)

6 原因・動機の詳細の状況

発見日及び発見地を基準とした平成 25～29 年合計の自殺統計原票データから、千葉県内で発見された自殺者 5,625 人の内、原因・動機の特特定てきた者は 3,863 人で全体の 68.7%であった。延べ原因・動機数 5,317 件に占める割合は、「健康問題」が 47.4%を占め、次いで「経済・生活問題」が 18.0%、「家庭問題」が 16.2%であった。

「健康問題」の詳細をみると、「うつ病」が 40.6%、「身体の病気」が 33.5%であった。また、「経済・生活問題」の詳細をみると、「生活苦」が 37.8%、「多重債務」が 14.8%であった。さらに、「家庭問題」の詳細をみると、「家族の将来悲観」が 23.7%、「夫婦関係の不和」が 22.1%であった（図 5）。

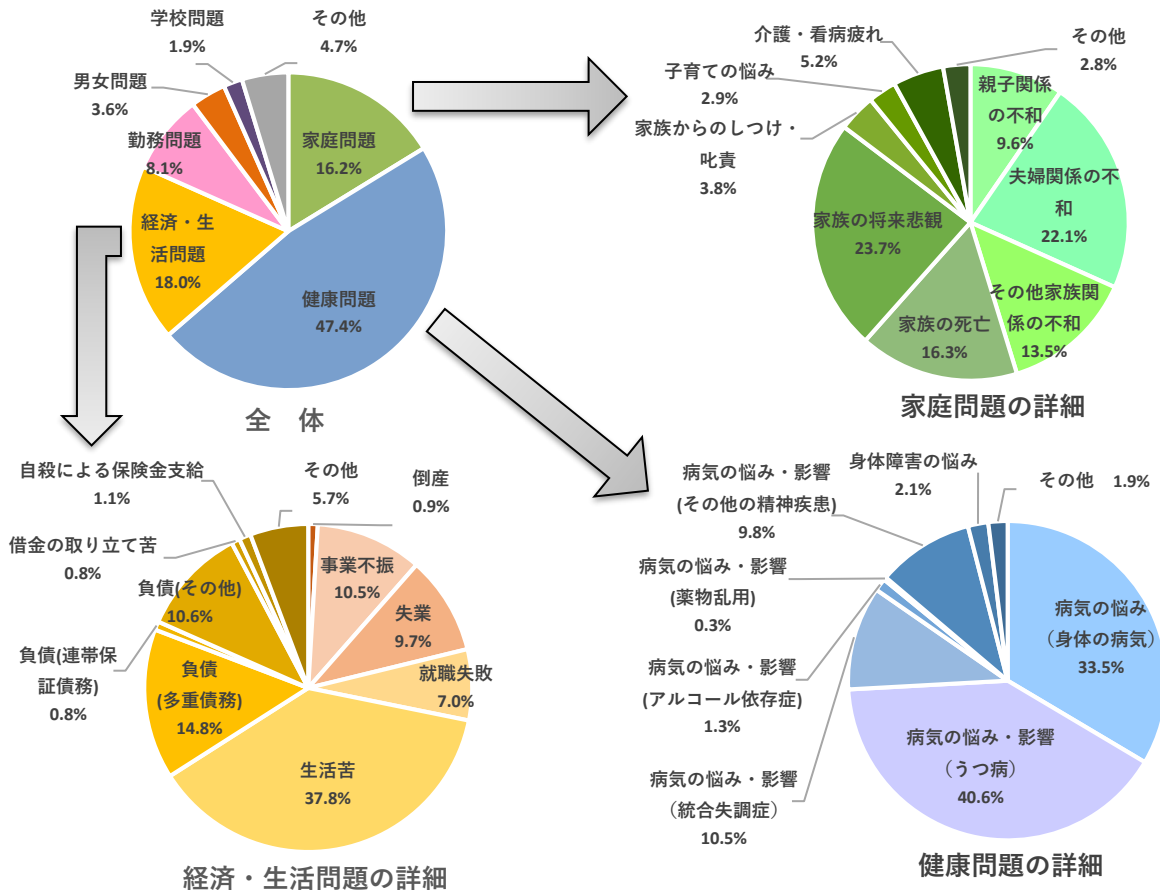


図 5 平成 25 年～29 年合計の自殺者の原因・動機の詳細(千葉県)

※表 2、図 4 及び図 5 の千葉県について

表 2 : 自殺日及び住居地を基準 (県外で発見された「住居地が千葉県」の自殺者を含むが、県内で発見された「住居地が県外」の自殺者を含まない)

図 4・5: 発見日及び発見地を基準 (県外で発見された「住居地が千葉県」の自殺者を含まないが、県内で発見された「住居地が県外」の自殺者を含む)

7 市町村別の状況

(1) 原因・動機別の状況

平成 25～29 年合計の自殺統計原票データから、発見地 (市町村) 別における原因・動機特定者数と延べ原因・動機数を表 3 に示した。自殺の発見地 (市町村) 別にみると、自殺者総数に対する原因・動機特定者数の割合が最も高かったのは、一宮町 (100.0%)、多古町 (90.0%)、鴨川市 (89.5%) であった。また、割合が最も低かったのは、長南町 (30.0%)、匝瑳市 (34.1%)、芝山町 (36.4%) であった。

表3 発見地(市町村)別における自殺の原因・動機特定者数と延べ原因・動機数

市町村名	自殺者総数	原因・動機 特定者数	延べ原因・動機数						
			家庭問題	健康問題	経済・ 生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
千葉市	818	562	122	386	137	69	39	21	39
銚子市	89	69	13	37	20	7	1	2	4
市川市	397	310	61	198	68	42	20	4	15
船橋市	479	302	68	194	76	38	16	13	15
館山市	64	51	21	23	18	6	3	-	5
木更津市	128	69	24	41	19	10	7	2	4
松戸市	400	290	43	189	63	37	16	8	27
野田市	154	123	25	77	41	14	10	2	11
茂原市	85	59	9	38	21	5	4	1	-
成田市	104	68	19	48	13	8	1	1	6
佐倉市	142	109	32	68	28	6	1	4	5
東金市	67	43	6	26	13	8	4	-	3
旭市	69	58	19	28	15	4	2	-	2
習志野市	124	68	12	39	22	7	1	5	4
柏市	329	251	55	178	56	31	15	9	11
勝浦市	25	14	1	6	7	2	1	-	-
市原市	288	140	55	81	30	9	3	5	7
流山市	128	96	21	73	15	11	2	2	4
八千代市	179	133	21	101	34	14	4	6	11
我孫子市	109	77	9	61	12	-	3	2	1
鴨川市	38	34	8	22	16	1	2	2	3
鎌ヶ谷市	95	59	11	38	12	4	3	3	5
君津市	114	64	11	44	7	7	2	1	5
富津市	76	51	9	31	14	10	1	-	6
浦安市	105	65	16	45	14	2	7	-	3
四街道市	72	40	9	29	10	3	1	1	6
袖ヶ浦市	57	33	13	14	5	8	2	1	3
八街市	58	45	13	29	14	4	4	1	2
印西市	83	66	16	39	18	8	5	2	1
白井市	53	46	13	29	2	6	3	1	6
富里市	44	26	7	12	11	-	-	-	2
南房総市	70	50	10	29	15	8	-	1	4
匝瑳市	44	15	2	9	7	-	-	-	2
香取市	83	58	15	44	7	7	2	-	6
山武市	70	49	17	30	19	3	-	1	1
いすみ市	52	35	4	26	11	7	-	-	5
大網白里市	50	39	9	27	11	7	2	1	2
酒々井町	13	8	3	1	3	1	-	-	1
栄町	34	23	6	17	6	-	1	-	2
神崎町	8	6	2	4	3	1	-	-	2
多古町	11	8	1	5	4	1	-	-	-
東庄町	10	9	1	9	-	2	-	-	2
九十九里町	33	23	5	12	11	2	2	-	1
芝山町	11	4	-	1	2	1	-	-	-
横芝光町	22	12	6	6	3	1	-	-	2
一宮町	9	9	1	8	2	-	1	-	1
睦沢町	11	9	1	7	1	-	-	-	-
長生村	23	19	3	12	5	1	-	-	3
白子町	17	14	3	8	5	2	-	-	-
長柄町	9	8	1	7	-	1	1	-	-
長南町	10	3	-	2	2	-	-	-	-
大多喜町	36	21	6	13	6	2	1	-	-
御宿町	8	6	1	8	-	-	-	-	-
鋸南町	18	14	5	11	4	1	-	-	1
千葉県	5,625	3,863	864	2,520	958	429	193	102	251

(2) 自殺の場所別の状況

平成 25～29 年合計の自殺統計原票データから、発見地（市町村）別における自殺の場所別の構成を図 6 に示した。また、発見された自殺者の内、市外居住の自殺者数及び自殺の場所別人数を表 4 に示した。

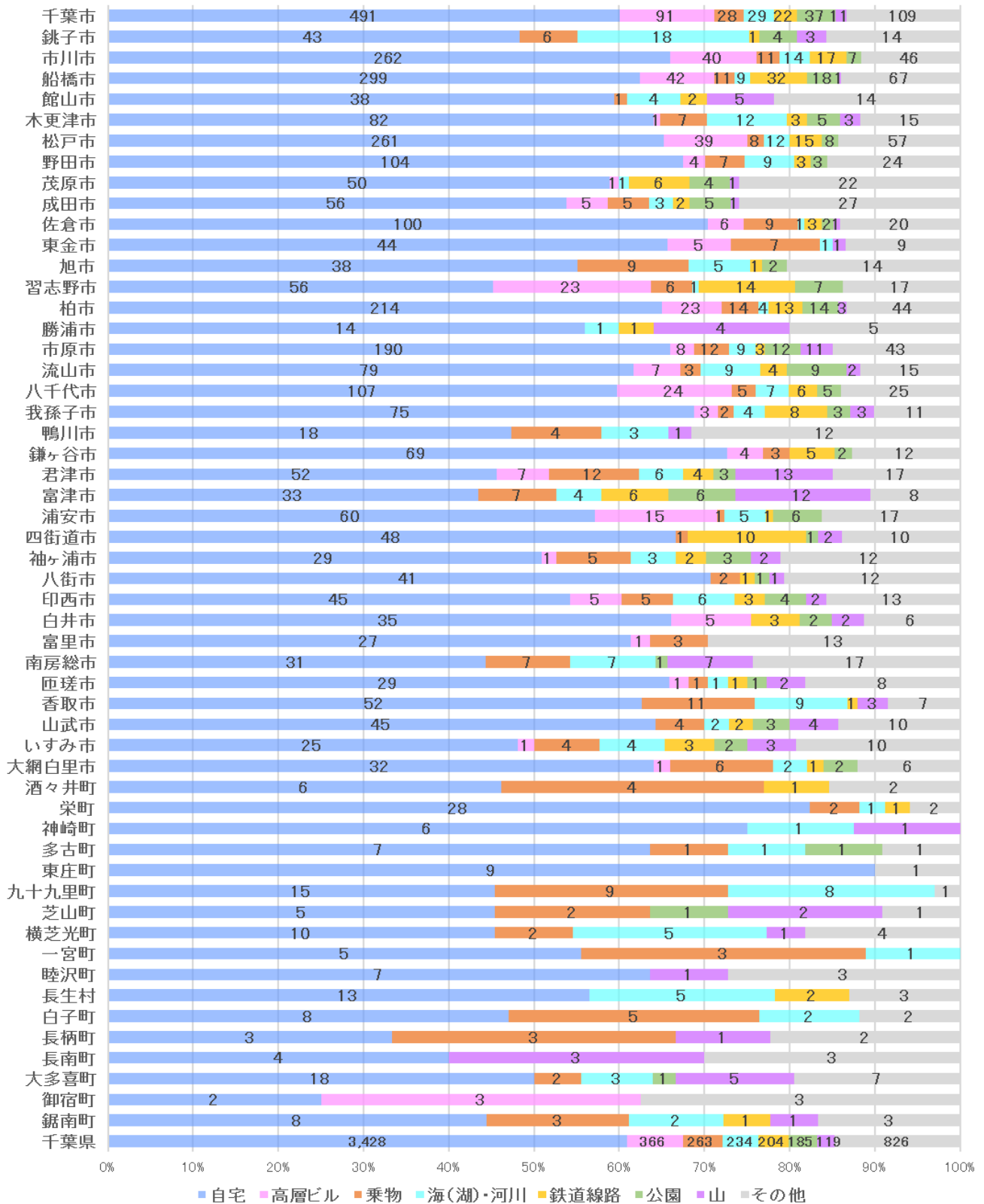


図 6 発見地(市町村)別における自殺の場所別の構成

表4 発見地(市町村)別における市外居住自殺者の自殺の場所別人数

市町村名	自殺者 総数	市外居住 自殺者数	市外居住自殺者の自殺の場所別人数						
			高層ビル	乗物	海(湖)・河川	鉄道線路	公園	山	その他
千葉市	818	86	11	8	5	8	11	1	42
銚子市	89	25	-	2	11	-	1	2	9
市川市	397	25	2	1	3	2	1	-	16
船橋市	479	44	6	1	1	13	5	-	18
館山市	64	10	-	1	2	1	-	3	3
木更津市	128	17	1	4	4	-	1	1	6
松戸市	400	31	4	5	6	5	1	-	10
野田市	154	8	1	2	1	-	1	-	3
茂原市	85	11	-	-	1	3	-	-	7
成田市	104	23	2	2	-	-	2	-	17
佐倉市	142	10	1	1	-	1	-	1	6
東金市	67	6	2	3	-	-	-	-	1
旭市	69	13	-	5	2	-	1	-	5
習志野市	124	26	4	3	-	7	2	-	10
柏市	329	36	2	4	1	2	6	2	19
勝浦市	25	4	-	-	-	1	-	2	1
市原市	288	22	-	4	2	1	3	3	9
流山市	128	10	-	1	2	-	3	1	3
八千代市	179	24	4	2	2	4	-	-	12
我孫子市	109	4	-	-	1	-	1	1	1
鴨川市	38	12	-	3	3	-	-	1	5
鎌ヶ谷市	95	4	1	-	-	-	-	-	3
君津市	114	17	1	5	-	-	-	5	6
富津市	76	28	-	7	3	-	3	10	5
浦安市	105	14	4	1	1	-	3	-	5
四街道市	72	5	-	-	-	3	-	-	2
袖ヶ浦市	57	10	-	3	2	-	-	-	5
八街市	58	1	-	-	-	1	-	-	-
印西市	83	22	-	1	4	2	3	1	11
白井市	53	9	1	-	-	2	-	1	5
富里市	44	2	-	-	-	-	-	-	2
南房総市	70	21	-	7	4	-	1	4	5
匝瑳市	44	4	-	-	1	-	-	1	2
香取市	83	15	-	4	3	-	-	3	5
山武市	70	10	-	2	-	-	1	2	5
いすみ市	52	18	-	2	1	2	2	2	9
大網白里市	50	6	-	5	-	-	-	-	1
酒々井町	13	4	-	3	-	1	-	-	-
栄町	34	5	-	1	1	-	-	-	3
神崎町	8	1	-	-	1	-	-	-	-
多古町	11	3	-	1	1	-	-	-	1
東庄町	10	1	-	-	-	-	-	-	1
九十九里町	33	14	-	8	5	-	-	-	1
芝山町	11	4	-	2	-	-	-	1	1
横芝光町	22	7	-	-	1	-	-	1	5
一宮町	9	3	-	3	-	-	-	-	-
睦沢町	11	1	-	-	-	-	-	-	1
長生村	23	4	-	-	2	1	-	-	1
白子町	17	8	-	5	-	-	-	-	3
長柄町	9	4	-	3	-	-	-	-	1
長南町	10	3	-	-	-	-	-	3	-
大多喜町	36	12	-	1	-	-	-	2	9
御宿町	8	2	1	-	-	-	-	-	1
鋸南町	18	8	-	3	1	-	-	1	3
千葉県	5,625	717	48	119	78	60	52	55	305

市外居住者は717人で、県外居住者は18都道府県187人であった。県外居住者の内、関東地方は162人（86.6%）を占めた。

自殺者に占める市外居住者の割合が高い市町村は、白子町（47.1%）、長柄町（44.4%）、鋸南町（44.4%）及び九十九里町（42.4%）であった。

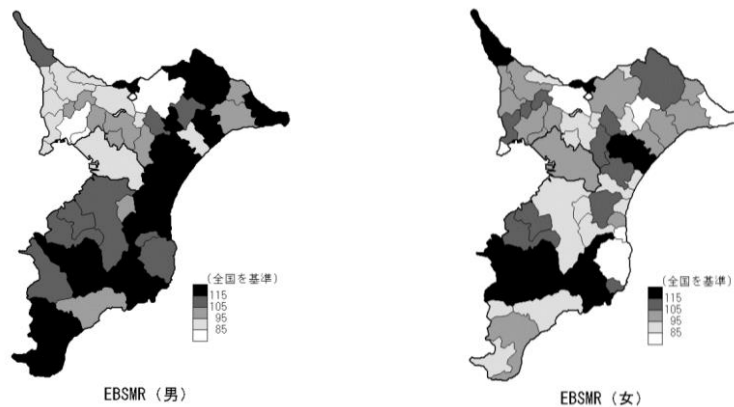
市外居住者の自殺の場所別をみると、「高層ビル」は千葉市、船橋市、「乗物」は千葉市、九十九里町、富津市及び南房総市、「海（湖）・河川」は銚子市、松戸市、「鉄道線路」は船橋市、千葉市、「公園」は千葉市、柏市、「山」は富津市、君津市が多かった（表4）。

その中で、「乗物」は、富津市、南房総市、白子町、長柄町及び鋸南町が全員市外居住者であり、九十九里町が9人の内8人であった。「海（湖）・河川」は、銚子市が18人の内11人であり、「山」では、富津市が12人の内10人であった（図6及び表4）。

【参考】平成25年～29年の合計でみた市町村別自殺の標準化死亡比の経験的ベイズ推定値（EBSMR）

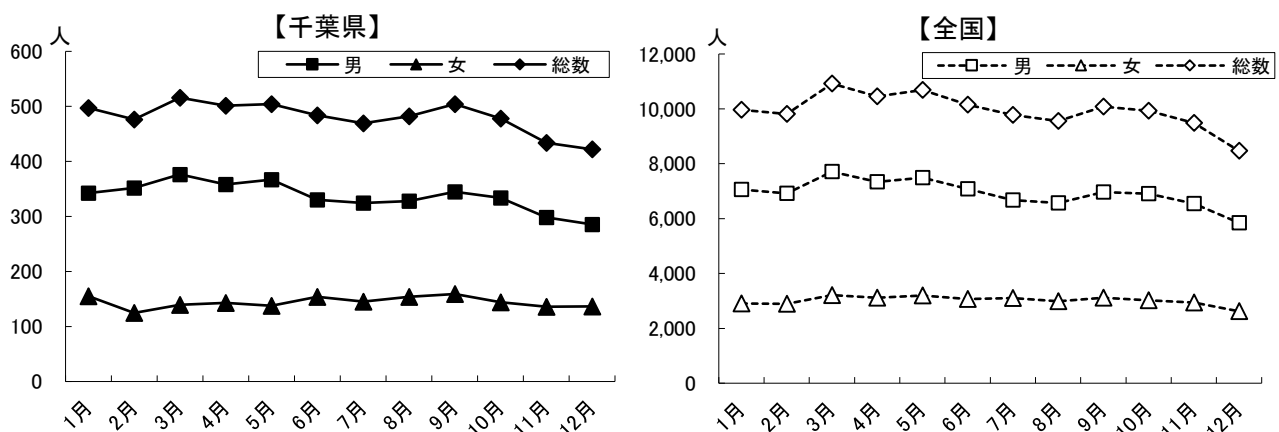
（※標準化死亡比は、年齢調整死亡率と同様に人口の年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるようにした指標であり、ここでは全国の標準化死亡比を100として算出した。

さらに自殺者数の少なさに起因する死亡率の変動の影響を抑え、より安定性の高い指標での地域間の比較を可能とするため、標準化死亡比の経験的ベイズ推定値を算出している。）



8 月別自殺者数の推移

月別の自殺者数について、平成25年～29年までを合計した値の動向をみると、全国と同様に千葉県は、男性で3月、次いで5月にピークがみられ、女性はピークがみられなかった（図7）。



※月の日数差の影響を除くため1ヵ月を30日と計算して調整した。
 ※出典 人口動態統計

図7 平成25年～29年合計の性別・月別自殺者数（千葉県・全国）

9 自殺との関連が考えられる事象の状況

(1) 年齢階級

本県の自殺者について、平成25年～29年の5年間の年齢階級別の自殺死亡率をみると、男性は60歳代を除く全ての年齢階級において減少傾向がみられ、特に50歳代で顕著であった。女性は30歳代及び60歳代に減少傾向がみられ、50歳代は微増傾向がみられた(図8)。

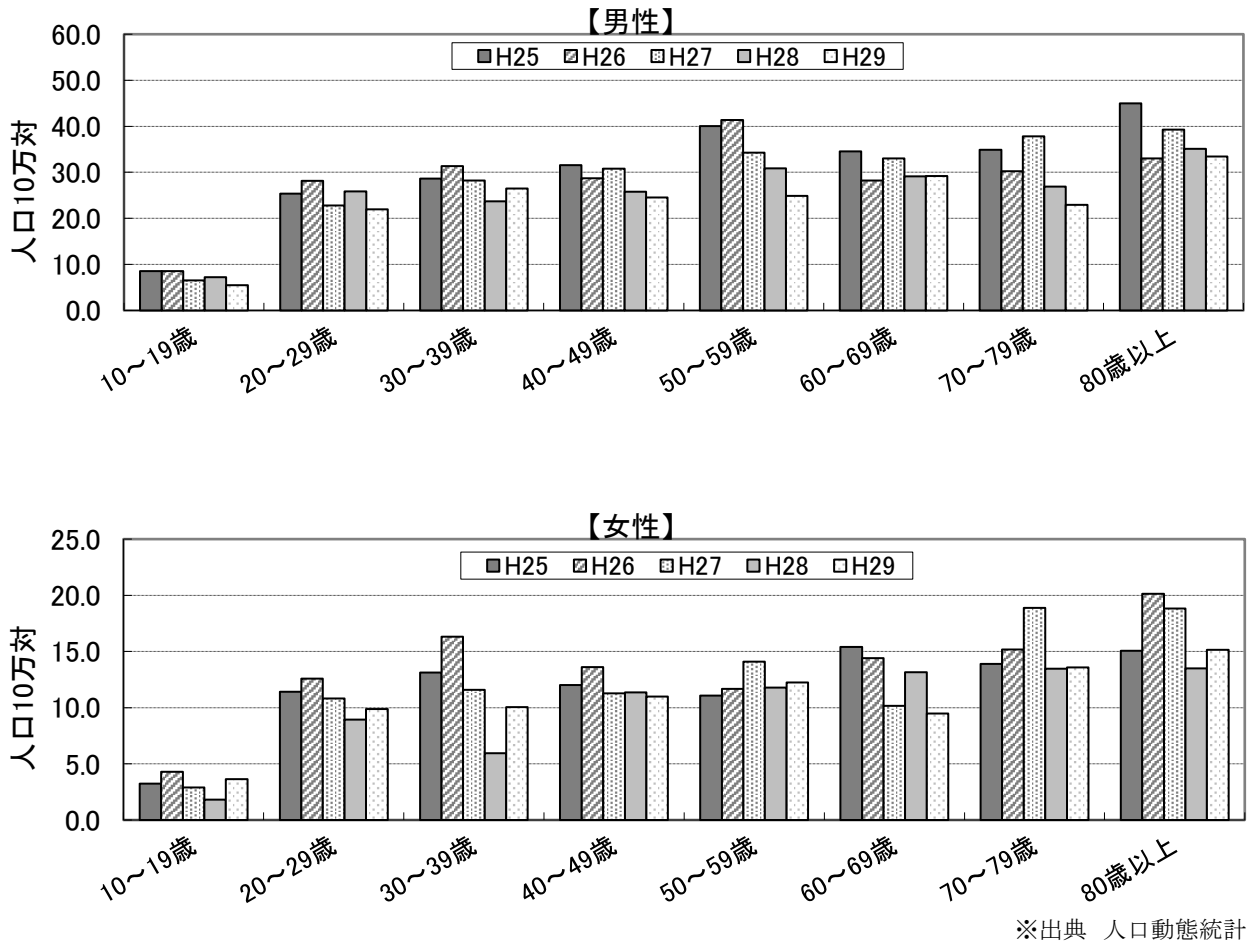


図8 年齢階級別自殺死亡率の年次推移(千葉県)

年齢階級別自殺の原因・動機をみると、10歳代は「学校問題」27.8%、「健康問題」15.0%、「家庭問題」11.1%で、「不詳」が32.2%に及んだ。

20歳代は「健康問題」21.9%、「家庭問題」12.8%、「勤務問題」12.1%、「経済・生活問題」10.8%、「男女問題」9.9%「不詳」21.1%であった。

30歳代は「健康問題」30.2%、「家庭問題」14.4%、「経済・生活問題」13.6%、「勤務問題」9.3%、「不詳」は23.9%で、20歳代とともに原因・動機が多岐に及んでいた。

40歳代と50歳代の原因・動機は同じ傾向にあり、「健康問題」(40歳代32.3%・50歳代32.6%)、「経済・生活問題」(16.7%・19.9%)、「家庭問題」(11.5%・10.8%)、「勤務問題」(8.7%・7.4%)、「不詳」(25.1%・26.0%)であった。

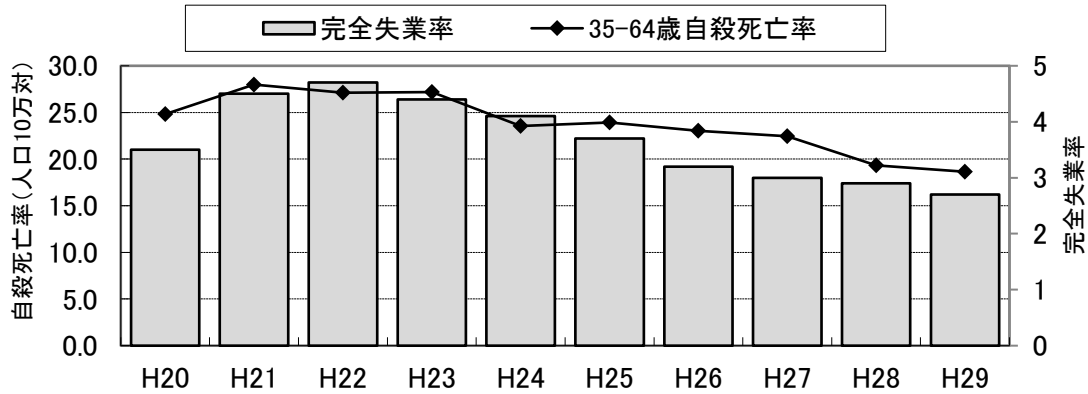
60歳代は「健康問題」41.5%、「経済・生活問題」16.6%、「家庭問題」11.0%、「不詳」24.2%であった。

70歳代は「健康問題」50.3%、「家庭問題」11.9%、「経済・生活問題」8.9%、「不詳」24.7%であった。

80歳代は「健康問題」49.5%、「家庭問題」16.2%、「不詳」25.6%であった。

(2) 完全失業率

平成 20 年～29 年の 10 年間の労働力調査による完全失業率と 35～64 歳の自殺死亡率の動向を図 9 に示した。

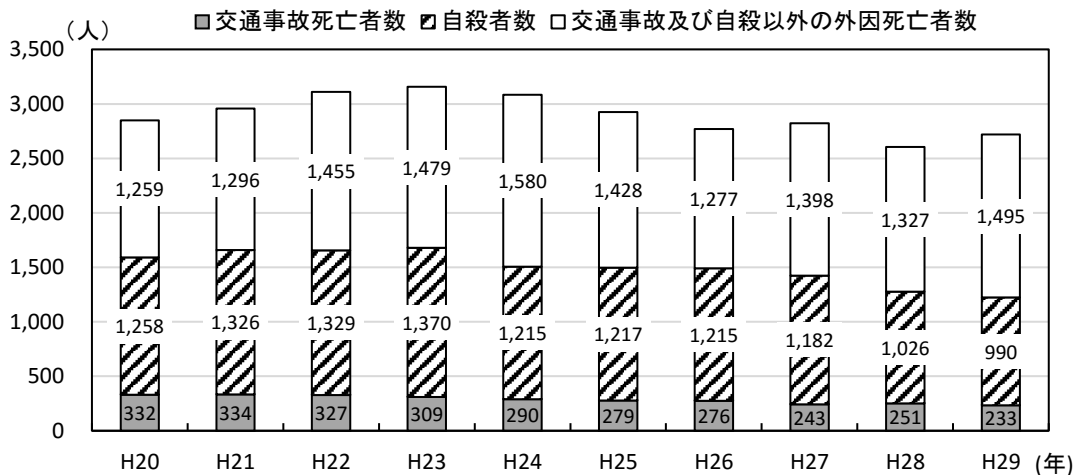


※出典 完全失業率:労働力調査 自殺死亡率:人口動態統計

図 9 完全失業率と 35～64 歳自殺死亡率の年次推移(千葉県)

(3) 交通事故死亡者数と自殺者数

平成 20 年～29 年の 10 年間の人口動態統計によると、千葉県における自殺者数は交通事故死亡者数の約 4 倍で推移していた。交通事故死亡者数は平成 22 年以降減少傾向にあり、平成 29 年は 233 人であった。交通事故及び自殺以外の外因死亡者数は平成 24 年をピークに平成 26 年まで減少したが、平成 27 年以降は増加傾向にあり、平成 29 年は 1,495 人であった。主な死因をみると、「転倒・転落・墜落」が 444 人、「不慮の窒息」が 329 人、「不慮の溺死及び溺水」が 140 人であり、いずれも高齢者に多くみられた(図 10)。



※出典 人口動態統計

図 10 交通事故死亡者数と自殺者数の推移(千葉県)

10 児童・生徒における自殺の状況

(1) 18歳以下自殺者の内訳

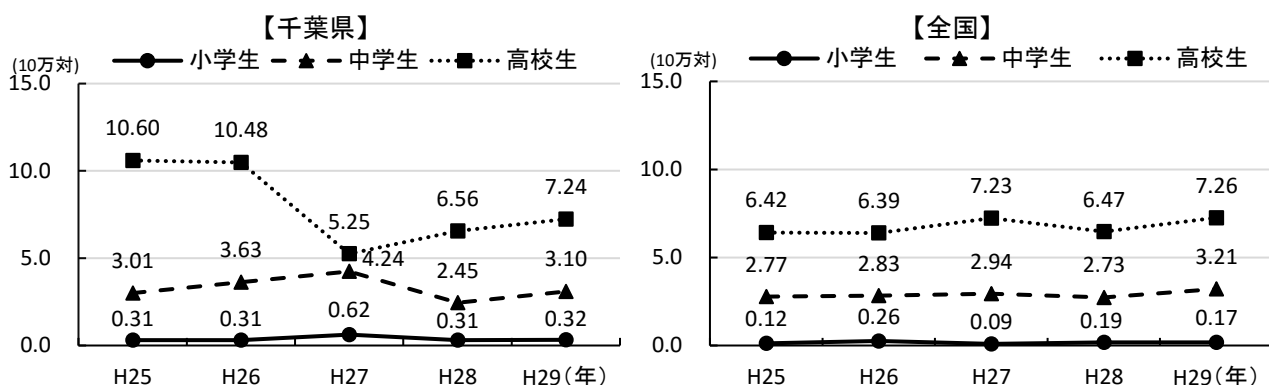
平成25～29年合計の自殺統計原票データによると「大学生」「専修学校生等」を除く※1 18歳以下の自殺者は、「小学生」6人、「中学生」27人、「高校生」59人であった。「児童・生徒以外※2」は全員16歳以上で計13人であった。

※1 学校に行っていない者も含め、小学生・中学生・高校生に該当する年齢層の自殺者をみるため、18歳の大学生・専修学校生の計8人を除いた。

※2 児童・生徒以外：自殺統計原票上の職業分類において、「小学生」「中学生」「高校生」以外の自殺者

(2) 自殺死亡率

千葉県における高校生の自殺死亡率をみると、平成26年から27年にかけて半減していた。しかし、その後徐々に増加傾向がみられた（図11）。

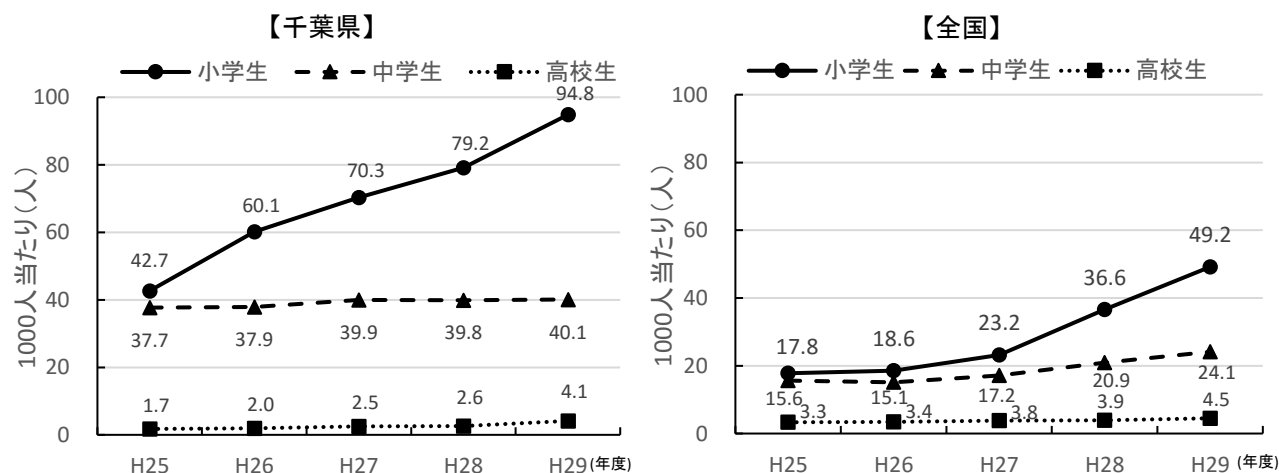


※出典 自殺者数…千葉県:平成25～29年自殺統計原票データ 全国:地域における自殺の基礎資料
 在籍者数…学校基本調査
 自殺死亡率…自殺者数/在籍者数×100,000

図11 児童・生徒の自殺死亡率の推移(千葉県・全国)

(3) いじめの認知件数

平成25年度～29年度の児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果によると、千葉県及び全国のいじめの認知件数は、小学生は急激に増加し、中学生及び高校生は緩やかな増加が認められた。千葉県の5年間のいじめの平均認知件数は、小学生は22,226件/年、中学生は6,420件/年、高校生は395件/年であった（図12）。



※出典 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について(文部科学省)

図12 いじめの認知件数の推移(千葉県・全国)

(4) 不登校

小学生及び中学生は、千葉県及び全国ともに増加傾向がみられた。一方高校生は、千葉県において減少傾向がみられた。千葉県の5年間の平均不登校児童生徒数は、小学生は1,312人/年、中学生は4,277人/年、高校生は3,149人/年であった(図13)。

※注：不登校…年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童・生徒。

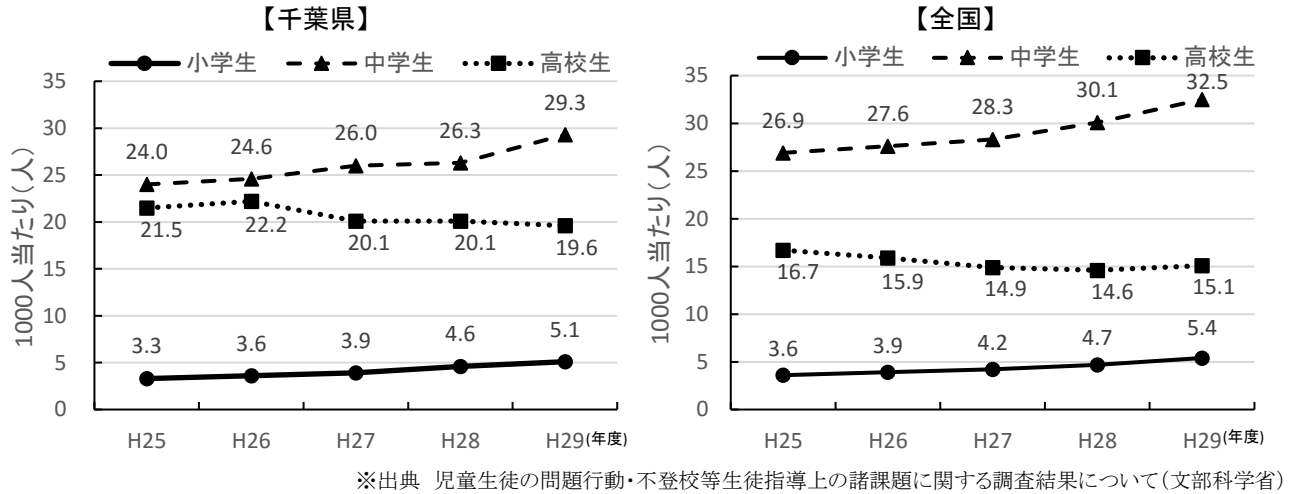


図13 不登校児童生徒数の推移(千葉県・全国)

(5) 中途退学(高校生)

平成25年度から28年度にかけて、千葉県の中途退学率は全国より低い数値で推移していたが、平成29年度は全国と同じ1.3となった。近隣県と比較すると、千葉県と埼玉県は平成25年度から27年度にかけて同水準であったが、平成28年度以降は差が開いている(図14)。

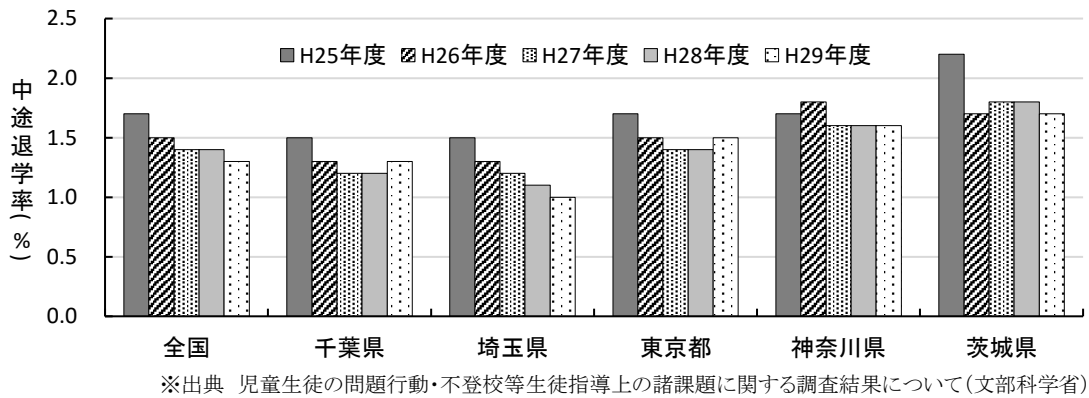


図14 中途退学者率(高校生)の推移(全国・千葉県・近隣県)

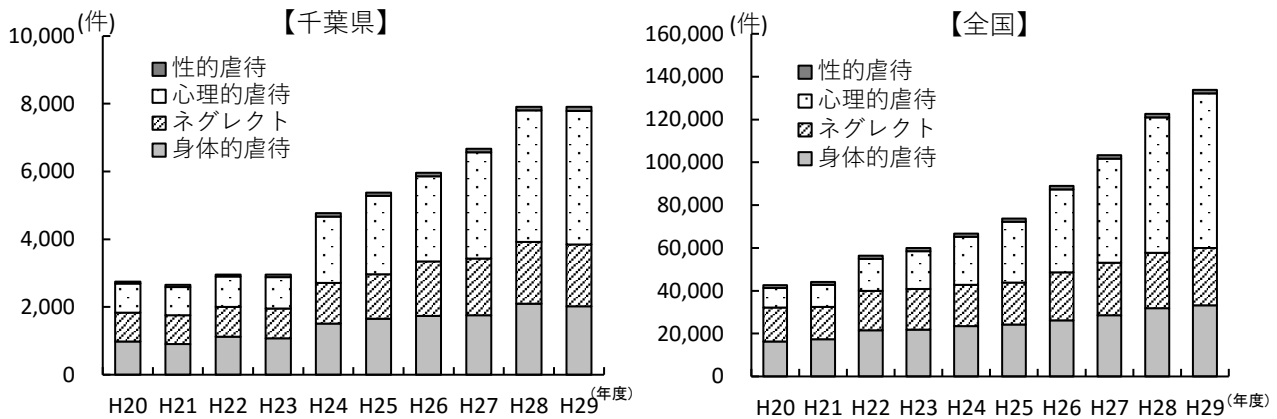
(6) 児童相談所における児童虐待相談対応件数

千葉県は全国と同様、平成 20 年度と比較して、心理的虐待の全体を占める割合が増大し、平成 29 年度は全体の 50%に達した (図 15)。

※心理的虐待：言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう (ドメスティック・バイオレンス：DV) など

※ネグレクト：家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かない など

(出典：厚生労働省ホームページ「児童虐待の定義」)



※出典 福祉行政報告例

図 15 児童相談所における児童虐待相談対応件数(千葉県・全国)

1.1 自殺未遂の状況

(1) 自殺未遂歴の有無

平成 25~29 年合計の自殺統計原票データから、自殺未遂歴の有る者は、総数 1,123 人、男性 545 人、女性 578 人であった。自殺未遂歴の有無別自殺者数の割合をみると、自殺未遂歴「有り」の者の割合は、全ての年齢階級で女性が男性を上回っていた。特に、20~40 歳代の女性では、自殺未遂歴が「有り」の者が 40%以上であった (図 16)。

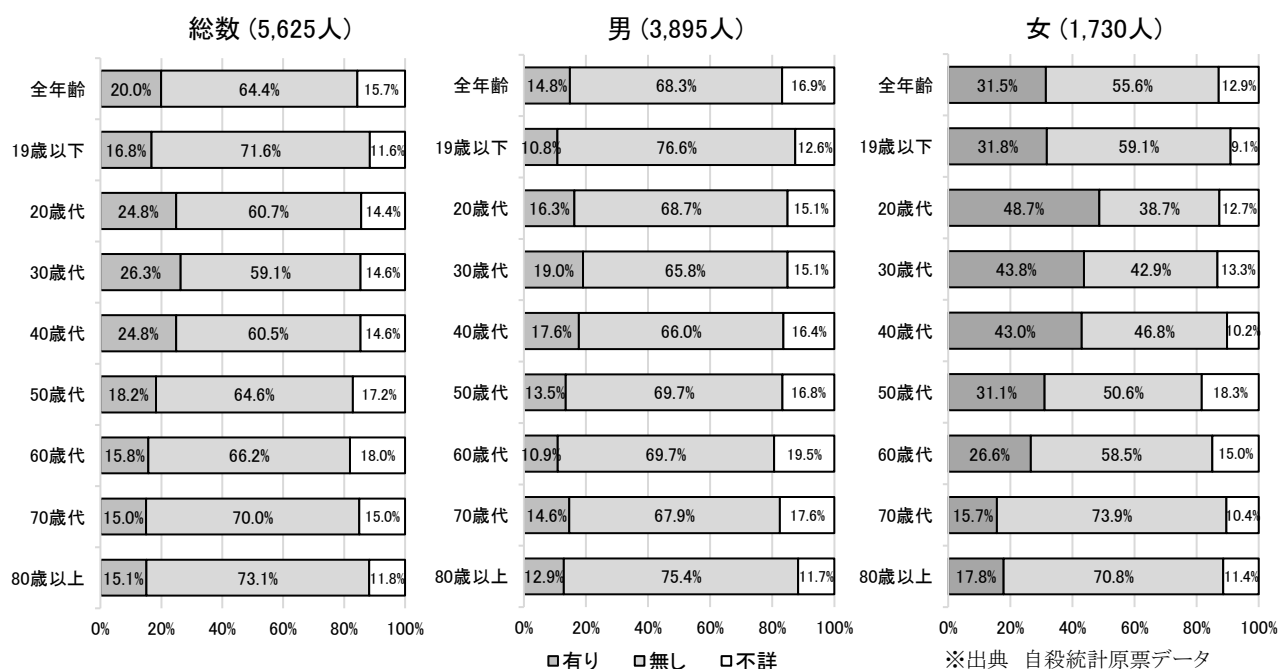


図 16 平成 25~29 年合計でみた自殺未遂歴の有無別自殺者数の割合 (千葉県)

(2) 救急出場件数及び搬送人員

千葉県防災危機管理部消防課の消防防災年報によると、平成 28 年の自損行為による救急車の出場件数は 2,832 件で、前年に比べ 157 件 (5.3%) 減少した。搬送人員は 1,917 人で、前年に比べ 40 人 (2.0%) 減少した。また、平成 28 年の全出場件数 310,602 件に占める自損行為 2,832 件の割合はおよそ 1%で、平成 22 年以降は減少傾向であった。

自殺者数との関連を見ると、毎年、自殺者数の 1.7~2 倍程度の者が自損行為により救急搬送されていた (表 5、図 17)。

表 5 事故種別救急出場件数及び搬送人員 年次別推移(千葉県)

区分 年	出場件数					搬送人員					(参考)
	出場件数計	急病	交通事故	自損行為	その他	搬送人員計	急病	交通事故	自損行為	その他	自殺者数
H19	258,189	155,746	29,791	3,582	69,070	237,839	143,278	31,595	2,633	60,333	1,294
H20	248,947	149,983	27,545	3,594	67,825	227,701	137,415	28,687	2,544	59,055	1,258
H21	250,187	151,963	27,590	3,839	66,795	229,045	139,657	28,616	2,714	58,058	1,326
H22	268,683	165,505	27,858	3,575	71,745	245,163	151,734	28,675	2,513	62,241	1,329
H23	280,482	173,446	28,537	3,518	74,981	254,621	158,825	28,982	2,393	64,421	1,370
H24	284,154	177,045	27,888	3,203	76,018	257,394	161,769	28,378	2,167	65,080	1,215
H25	294,367	183,277	27,206	3,243	80,641	264,224	166,697	27,564	2,172	67,791	1,217
H26	297,758	185,448	26,083	3,074	83,153	265,818	168,025	26,089	2,020	69,684	1,215
H27	305,160	191,162	25,406	2,989	85,603	271,745	172,935	25,387	1,957	71,466	1,182
H28	310,602	195,933	24,762	2,832	87,075	277,167	177,656	24,644	1,917	72,950	1,026

※出典 救急出場件数及び搬送人員：千葉県防災危機管理部消防課 消防防災年報
自殺者数：人口動態統計

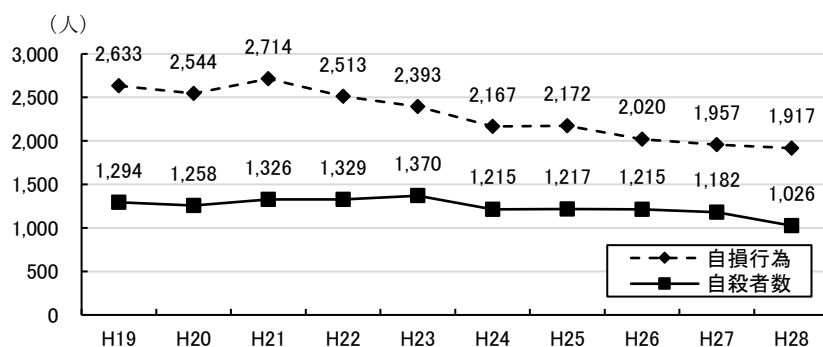


図 17 自損行為による救急搬送人員と自殺者数の推移(千葉県)

12 自殺に関連する相談の状況

(1) 精神保健に関する相談

県精神保健福祉センターでは、精神保健に関する対面相談や電話相談を実施している。

対面相談では、延人員の合計が27年度2,051人、28年度1,898人、29年度2,312人で、前年度より約22%の増加となった。内訳をみると、26~28年度はその他を除いて、“思春期”の相談が最も多かったが、29年度は“薬物”の相談が最も多く、446人であった。“自殺関連”の相談は29年度15人であった。

電話相談では、合計が27年度9,395件、28年度6,946件、29年度は7,437件で、前年度より約7%の増加となった。内訳をみると、29年度は“薬物”の相談が21年度以降で最も多く、288件であった。“自殺関連”の相談は29年度330件であった。(表6)。

表6 精神保健福祉センターへの相談内容

表6-1 対面相談

(年度)	実人員	延 人 員										再掲			
		老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	うつ・うつ状態	その他	計	ひきこもり	発達障害	自殺関連	犯罪被害
H21	1,364	628	2,608	96	69		118	291	709	417	4,936	330	68	76	5
H22	1,317	85	670	97	89		137	589	227	387	2,281	80	22	77	2
H23	1,227	60	583	94	15		135	723	384	403	2,397	58	17	48	7
H24	1,294	40	468	83	35		184	408	166	673	2,057	60	19	57	2
H25	1,314	37	248	80	30		233	401	126	754	1,909	158	45	35	6
H26	1,351	56	259	80	71	15	346	277	146	841	2,091	92	53	27	0
H27	1,304	66	219	101	107	31	386	280	137	724	2,051	2	42	0	0
H28	1,396	66	290	103	64	42	298	225	86	724	1,898	89	46	19	2
H29	1,461	49	322	108	446	54	202	234	116	781	2,312	41	64	15	2

※出典 衛生行政報告例

表6-2 電話相談

(年度)	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	うつ・うつ状態	その他	計	再掲			
											ひきこもり	発達障害	自殺関連	犯罪被害
H21	46	1,023	79	77		123	1,914	1,189	3,994	8,445	294	112	342	24
H22	33	947	101	63		159	759	2,510	3,805	8,377	282	270	370	30
H23	52	1,068	79	41		172	2,232	1,757	2,626	8,027	184	145	229	32
H24	46	1,701	69	76		148	2,762	1,164	3,231	9,197	150	154	298	36
H25	43	2,028	101	67		151	2,619	1,074	3,421	9,504	105	150	166	22
H26	48	1,974	99	127	75	155	3,165	1,283	2,623	9,549	125	147	282	19
H27	48	1,955	77	89	105	172	3,081	1,101	2,767	9,395	52	220	374	35
H28	113	498	187	170	92	345	1,835	873	2,833	6,946	108	238	282	29
H29	94	1,515	92	288	119	132	2,239	894	2,064	7,437	179	217	330	32

※出典 衛生行政報告例

(2) 「千葉いのちの電話」への電話相談（2017年1月～12月）及びフリーダイヤル（毎月10日実施）



図18 電話相談内容別相談件数と自殺志向の割合

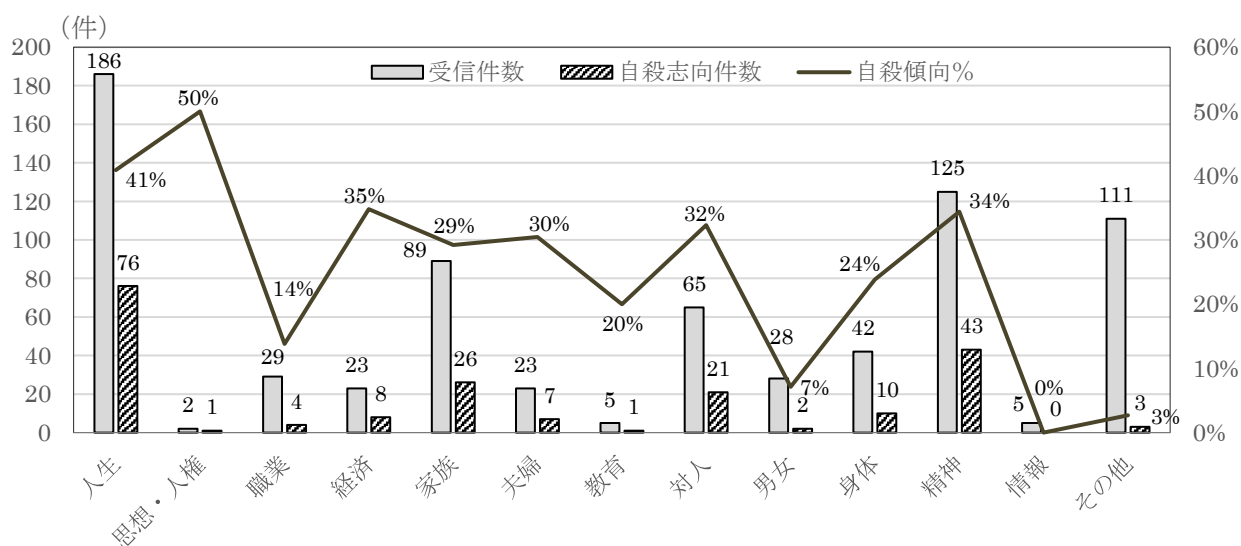


図19 フリーダイヤル内容別相談件数と自殺志向の割合

※出典 社会福祉法人千葉いのちの電話ホームページ

【本書の掲載先】

千葉県衛生研究所健康疫学研究室ホームページ

「自殺に関する統計」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/toukeidata/jisatsutoukei.html>

【関連ホームページ】

千葉県健康福祉部健康づくり支援課ホームページ

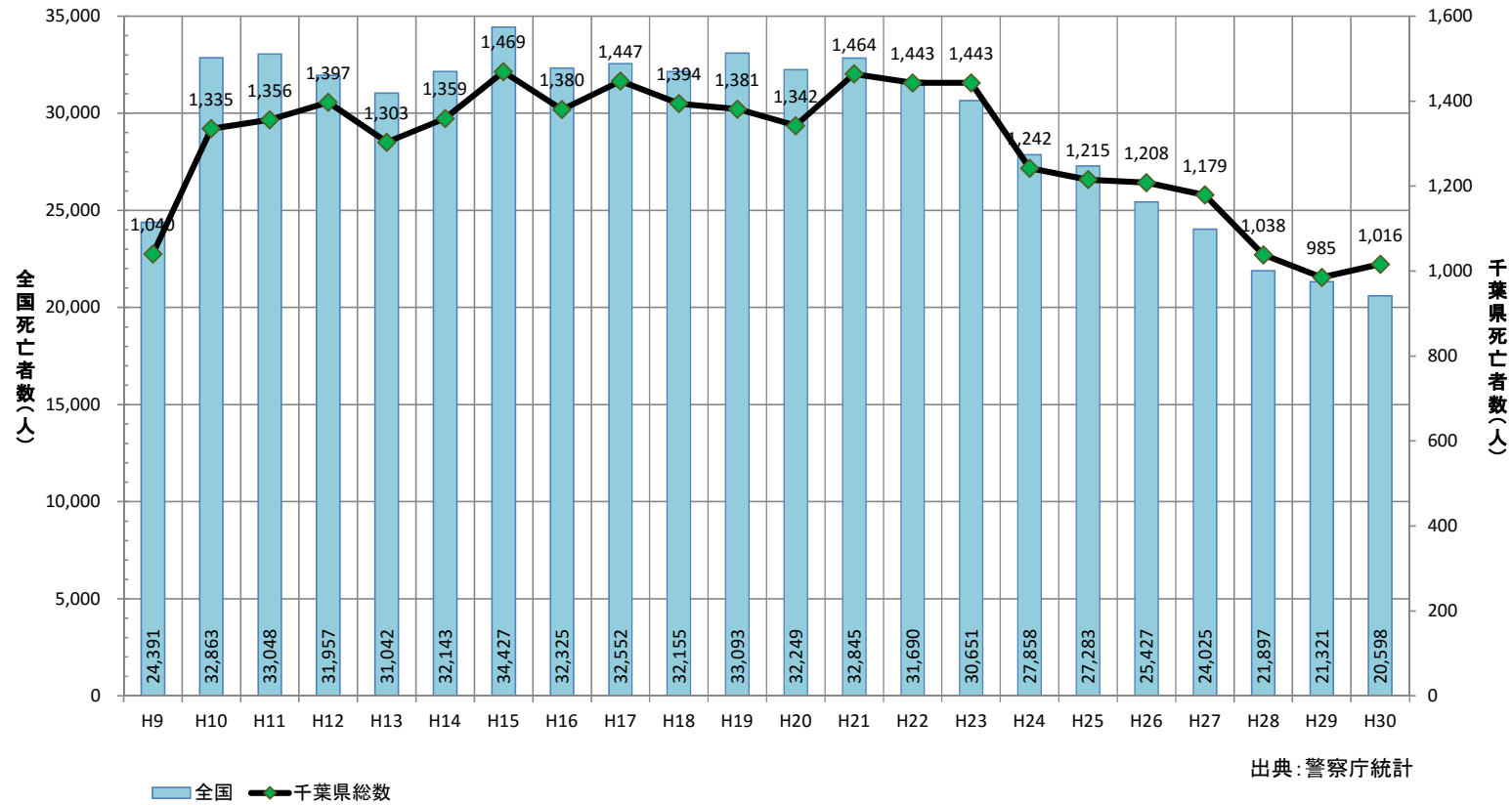
「自殺対策班」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenzu/kokoro/jisatsutaisakuhan.html>

「<健康情報ナビ>健康寿命ほか、健康施策の推進をサポートする各種統計情報」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenzu/seikatsushuukan/kennkoujyouhounabi.html>

全国・千葉県の自殺死亡者数の年次推移



千葉県の自殺死亡数の年次推移

年次	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
千葉県総数	1,040	1,335	1,356	1,397	1,303	1,359	1,469	1,380	1,447	1,394	1,381	1,342	1,464	1,443	1,443	1,242	1,215	1,208	1,179	1,038	985	1,016
全国	24,391	32,863	33,048	31,957	31,042	32,143	34,427	32,325	32,552	32,155	33,093	32,249	32,845	31,690	30,651	27,858	27,283	25,427	24,025	21,897	21,321	20,598

平成29年及び平成30年の自殺者数等の比較（都道府県別）

	平成29年（確定値）		平成30年（速報値）		自殺者数対前年比	
	自殺者数	自殺死亡率	自殺者数	自殺死亡率	増減数	増減率
全国	人 21,321	16.8	人 20,598	16.3	人 △ 723	% △ 3.4
北海道	1,001	18.8	986	18.5	△ 15	△ 1.5
青森	286	22.4	281	22.0	△ 5	△ 1.7
岩手	275	21.9	269	21.4	△ 6	△ 2.2
宮城	418	18.0	393	16.9	△ 25	△ 6.0
秋田	245	24.6	206	20.7	△ 39	△ 15.9
山形	217	19.7	199	18.1	△ 18	△ 8.3
福島	382	20.3	387	20.6	5	1.3
茨城	486	16.8	462	16.0	△ 24	△ 4.9
栃木	393	20.1	365	18.7	△ 28	△ 7.1
群馬	368	18.8	363	18.5	△ 5	△ 1.4
埼玉	1,182	16.2	1,186	16.2	4	0.3
千葉	985	15.8	1,016	16.3	31	3.1
東京	2,145	15.6	2,248	16.4	103	4.8
神奈川	1,276	13.9	1,119	12.2	△ 157	△ 12.3
新潟	473	20.9	479	21.1	6	1.3
富山	217	20.5	172	16.3	△ 45	△ 20.7
石川	199	17.3	161	14.0	△ 38	△ 19.1
福井	132	16.9	133	17.1	1	0.8
山梨	182	22.1	204	24.8	22	12.1
長野	352	17.0	341	16.4	△ 11	△ 3.1
岐阜	361	18.0	359	17.9	△ 2	△ 0.6
静岡	677	18.4	611	16.6	△ 66	△ 9.7
愛知	1,151	15.3	1,065	14.2	△ 86	△ 7.5
三重	341	18.9	334	18.6	△ 7	△ 2.1
滋賀	227	16.1	227	16.1	0	0.0
京都	368	14.2	342	13.2	△ 26	△ 7.1
大阪	1,201	13.6	1,210	13.7	9	0.7
兵庫	976	17.7	954	17.3	△ 22	△ 2.3
奈良	187	13.9	217	16.1	30	16.0
和歌山	201	21.3	203	21.5	2	1.0
鳥取	100	17.7	79	14.0	△ 21	△ 21.0
島根	119	17.4	113	16.5	△ 6	△ 5.0
岡山	273	14.3	267	14.0	△ 6	△ 2.2
広島	468	16.5	445	15.7	△ 23	△ 4.9
山口	232	16.8	217	15.7	△ 15	△ 6.5
徳島	123	16.6	89	12.0	△ 34	△ 27.6
香川	160	16.5	157	16.2	△ 3	△ 1.9
愛媛	290	21.3	225	16.5	△ 65	△ 22.4
高知	126	17.6	133	18.6	7	5.6
福岡	879	17.2	852	16.7	△ 27	△ 3.1
佐賀	139	16.9	160	19.4	21	15.1
長崎	245	18.1	209	15.4	△ 36	△ 14.7
熊本	287	16.3	258	14.6	△ 29	△ 10.1
大分	212	18.4	214	18.6	2	0.9
宮崎	208	19.1	200	18.4	△ 8	△ 3.8
鹿児島	303	18.6	277	17.0	△ 26	△ 8.6
沖縄	253	17.5	211	14.6	△ 42	△ 16.6

注 1. 警察庁提供データ(12月末の速報値)により厚生労働省が作成(自殺者数は、死体が発見された都道府県及び月に計上している。)
 2. 自殺死亡率:人口10万人当たりの自殺者数
 3. 人口は、総務省「人口推計(平成29年10月1日現在)」(平成30年4月13日公表)に基づく。